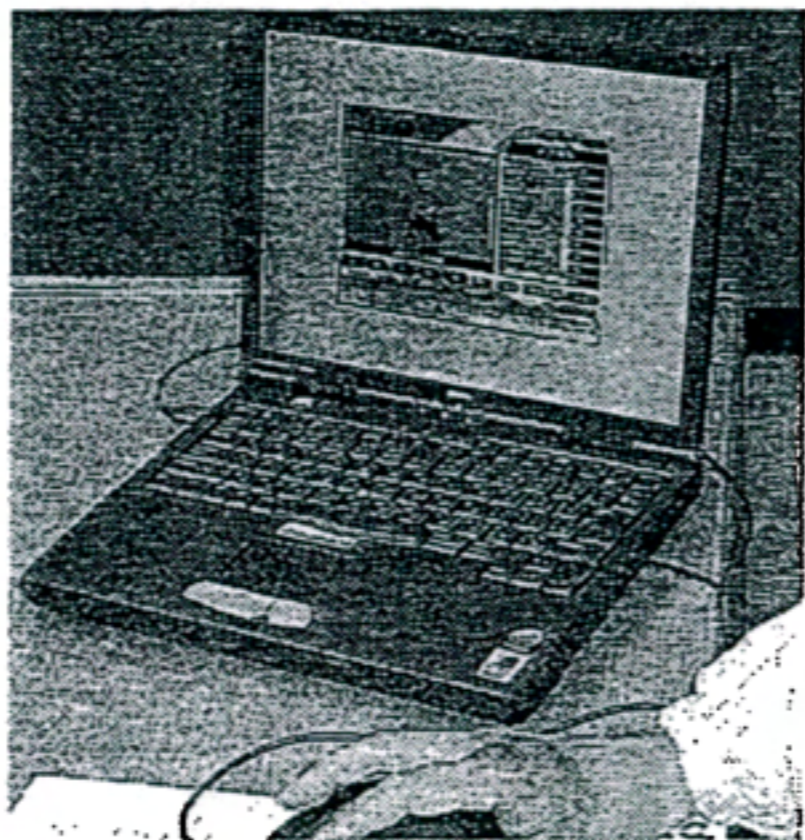


コンピュータで「手話」を学ぼう

レイシスソフトウェアサービス(本社・大阪市、小野逸二社長)は手話の学習用CD-ROMソフト「手話学習辞典」を開発し、発売した。ビデオ画像で例文を学んでいく写真。学校現場の教材用に需要を見込んでいる。

同社は平成十年度に通産省の「先導的コンテンツ市場環境整備事業」の支援を受けて開発に着手。全日本ろうあ連盟の監修のもと、商品化にこ



レイシスソフト

学校教材に需要

ぎつけた。

手話では「行動をおこす」と「問題をおこす」とでは、同じ「おこす」でも表現方法が違う。このため、一単語ごとではなく、例文の形で収録し、より学習の実用性を高めたのが特徴。三千例文を収め、マスターすれば簡単な会話レベルならできるようになるといふ。画像は通常スピード、スロー、早送りのモードで操作し、繰り返しも可能。また、主な手話サークルなどのホームページアドレスも入力されていて、インターネット

トに接続できる。

学習指導要領の改定によって十四年度から学校の科目に「総合的な学習の時間」が取り入れられ、国際交流や福祉、コンピュータ教育など幅広い学習がスタート。手話を見直らに学ばせるツールとして教材販売会社を通じて売り込みをはかる。

Windows 95、98対応で七枚組。価格は四万八千円だが、学校向けには納入量に応じて価格を抑えて販売していく。初年度売り上げ目標は約千本。